

ブラジル（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [サンパウロ日本文化センター](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
26	55	2,680	65	126	4,788	12	73	2,587	249	902	16,653	309	1,156	26,708

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

ブラジルの日本語教育は、1908年の移民開始による日系人子弟への継承語（国語）教育をその源流としている。第二次世界大戦前に、一時禁止された時期もあったが、戦後再開された。1963年にサンパウロ大学で日本語・日本文学講座（専攻課程）が開講され、高等教育機関での日本語教育が始まり、1989年には、サンパウロ州、パラナ州の教育局の言語教育センター（サンパウロ州はCEL-SP、パラナ州はCELEM-PR）で中等教育段階の生徒を対象とした日本語教育が開始された。また、2016年にはアマゾナス州にポルトガル語と日本語のバイリンガル中学校（2019年には隣接して高校も開校）、同年ブラジルの連邦大学で実施されている課外外国語講座「国境なき言語（以下、IsF）」プログラムに日本語講座も開講、2017年には特別連邦区（以下、DF）の言語教育センター（以下、CIL）、2023年にサンパウロ市教育局言語教育センター（以下、CELP）でも日本語講座が開講された。なお、2025年にはDF州教育局がポルトガル語・日本語バイリンガル校を設立することになり、国際

交流基金（JF）サンパウロ日本文化センター（以下、JF サンパウロ）と覚書を締結するなど、日系人対象以外にも学校教育、学校教育外のさまざまな場面で日本語学習の機会が一般化している。

背景

上記のとおり、ブラジルの日本語教育は、日本人移民子弟の継承語教育を源流としており、現在、約 200 万人と言われる日系社会を背景に発展してきた。ただ、日系社会でも世代を経るにつれポルトガル語化が進み、国語の教科書を使用した「継承語教育」は、現在では一部の学校のみとなり、主流は「外国語としての日本語教育」となっている。一方、1990 年以降、ポップカルチャーへの関心から日本語学習を始める非日系の学習者も増加している。また、1990 年代のいわゆる「デカセギ」ブームから日本との往来が増加し、両親の職場に合わせて日本とブラジルを移動しながら成長する子ども達も少なからず存在する。

特徴

2024 年度海外日本語教育機関調査（以下、2024 年度機関調査）によると、学習者全体の 6 割が学校教育以外の機関で学んでいる。1990 年調査時には同割合が 98%であったことを考えると、その比率は下がっているが、半数以上が学校教育以外で学んでいる。また、日本語教育の発展の歴史的経緯から、子どもの学習者が多いのが特徴で、初等・中等教育の学習者は 2024 年度機関調査で約 28%を占める。また、日系社会が運営する学校では、文化継承、情操教育なども教育目的とする機関もあり、その内容も特徴的であるといえる。

最新動向

コロナ禍で多くの機関がオンラインコースを提供するようになり、オンラインコースのみ提供する学校も存在するようになった。対面コースとオンラインコースを同時開講している機関も増えており、コロナ禍で減少した学習者が回復してきている。日本語教科書については、JF が制作した『まるごと 日本のことばと文化』（三修社）（以下、『まるごと』）や『いろどり 生活の日本語』（以下、『いろどり』）を使用しているコースが増加している。特に、『いろどり』は[ポルトガル語版](#)が 2022 年に公開され、無料で利用可能な教材であることから、使用する機関が増加している。また、JF サンパウロがサンパウロ州教育局の依頼で作成した中等教育段階向け日本語教科書『ことばな』については、サンパウロ州教育局の許諾を得て CELP 及びアマゾナス州マナウス市のバイリンガル校で使用しているが、本教科書が作成されて 15 年経過し、構成や内容が現場の教育目標やニーズに合わなくなってきていることから、JF サンパウロでは『ことばな』に代わる新しい教科書の制作に取り掛かっている。また、日本語オンライン教材については、JF が提供しているアプリなどがサンパウロ州教育局（以下 SEDUC-SP）のサイトでも公開されている。なお、SEDUC-SP のサイトがリニューアルされることにより、日本語を含む CEL-SP で提供されている『ことばな』がサイトに掲載されることになっている。

教育段階別の状況

ブラジルの教育段階は、「幼児教育 (Educação Infantil)」、「基礎課程 (Fundamental I, II)」と「中等課程 (Médio)」の 3-9-3 制。

ブラジルにおける義務教育は、幼児教育から基礎課程まで。「幼児教育」は 4~6 歳の 3 年間。「基礎課程」は 2 段階から成る。「基礎課程 1」は 1-5 年生の 5 年間で【初等教育】に相当し、「基礎課程 2」は 6-9 年生の 4 年間で、【中等教育】（日本の中学校）に相当する。「中等課程」は 1-3 年生の 3 年間で【中等教育】（日本の高校）

に相当する。

初等教育

公立校では、パラナ州クリチバ市の市立1校において、パラナ連邦大学日本語学科の教育実習の一環として提供されている。私立校では、初等教育段階前に保育段階や幼児教育から日本語教育を行う学校が存在する。このような私立校は、もとは日系移民のための学校であった機関が、バイリンガル校として再スタートしたことが多い。初等教育段階の日本語教育は、選択科目もしくは課外活動という位置づけがほとんどである。

中等教育

公立校では、「基礎課程2」の6年生（日本の小学6年生に相当）から第1外国語（英語）が導入されている。第2外国語は、地域や学校によりスペイン語、フランス語、ドイツ語などから選択できるところもある。日本語教育は、サンパウロ州、パラナ州、DF、サンパウロ市の教育局が運営する言語教育センター傘下の機関で課外活動として行われているものと、正規科目としてバイリンガル教育を実施する学校がある。また、言語教育センターに日本語講座がない州の中には、課外活動として日本語教育を実施している学校も存在する。言語教育センターの日本語講座に関し、2025年現在、サンパウロ州言語教育センター（CEL-SP）では41校、パラナ州言語教育センター（CELEM-PR）では2校、2017年より本格開講されたDFの言語センター（CIL）では8校で日本語講座が開講されている。2023年にはサンパウロ市教育局言語教育センター（CELP）にて日本語講座が新規開講された。

中等教育段階の公立校で日本語が導入されているバイリンガル校は、アマゾナス州の Djalma da Cunha Batista 州立学校（バイリンガル中学校、2016年開校）及び Profa. Jacimar da Silva Gama 州立学校（バイリンガル高校、2019年開校）で、他にリオデジャネイロ州立 José Maria de Brito Intercultural Brasil-Japão 高校（文化教育を中心とした日伯バイカルチュラル校、2022年開校）もある。また、課外授業を実施している公立校としては、リオデジャネイロ州立大学付属高校、リオグランデ・ド・スル州の Tiradentes 州立学校がある。

なお、【初等教育】で述べた通り、日本語教育を導入している私立校のうち、「基礎課程2」の9年生まで日本語を継続して学習できる学校は多いが、中等課程まで続けられる学校はわずかである。

【注】上記州立言語教育センター（CEL-SP、CELEM-PR、CIL）は、各州教育局が管内の中等教育機関施設内に生徒の課外活動や、地域住民への公開外国語講座として設置されているもので、独立した施設を有するものではない。一方、サンパウロ市では、市立中高とは別の施設として総合教育センター（文化、スポーツ等の課外活動を行う施設。一般市民も利用可能。CEUと呼ばれる）が市内各所に設けられており、日本語講座はCEU内の言語教育部門（CELP）にて実施されている。

高等教育

日本語教育の位置づけとしては、専攻課程、卒業単位として認定される正規の選択科目、そして公開講座がある。

ブラジルの高等教育機関で日本語の専攻課程を持つ機関は9大学（通信教育の私立大学1校を含む）で、サンパウロ大学（州立）、リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア大学（国立）、パウリスタ州立大学アシス校、リオグランデドスル連邦大学、リオデジャネイロ州立大学、パラナ州連邦大学、アマゾナス連邦大学、クルゼイロ・ド・スル大学（私立）である。

サンパウロ大学は日本語・日本文学、特に古典文学を中心とした研究者養成、リオグランデドスル連邦大学は近現代日本文学を中心に翻訳者養成、そのほかの7校は教員養成に重点を置いている。大学院課程としては、唯

サンパウロ大学に修士課程があるものの博士課程はない。他にブラジリア大学、カンピーナス大学（州立）、ペルナンブコ連邦大学の3校で正規科目として日本語が選択できる。

他に、所属学生以外でも受講できる公開講座として日本語講座を開講している大学が7校あり、前述の日本語専攻学科を持つ大学でも、公開講座としての日本語講座を開講している。

2016年10月、5つの連邦大学（リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、リオグランデドスル連邦大学、パラナ連邦大学、アマゾナス連邦大学）において、ブラジル教育省のプログラムである「国境なき言語（IsF）」にて日本語教育講座が開始された。この公開講座は、大学の国際化とそれに伴う高等教育の充実のための語学・文化理解教育を目的とし、その大学に在籍する学生と教職員を対象とする。このプログラムのもう一つの目的は言語教師育成であり、日本語を正規科目とする5連邦大学の学生がチューターとして日本語を教えるコースとしてスタートした。IsFは、2019年に運営主体が全国連邦高等教育機関学長協会

（ANDIFES）に移管された。2020年はコロナ禍で停止していたが、2021年には、5連邦大学を受講対象校として全面的にオンライン講座へ移行し再開した。その後、2022年には受講対象校が前述の5連邦大学から全国の連邦大学へと拡大され、多くの連邦大学生が受講可能となった。2025年現在、5連邦大学のチューターが64の連邦大学に日本語コースを提供している。

学校教育以外

「学校教育以外」の内訳としては、日系団体経営の日本語学校、民間の外国語学校、大学における公開講座などがある。学習者は20～30代の学生や社会人が多いが、児童・生徒も少なくない。地方都市では、学習者数は4～5人から20～30人規模で、土曜日のみ開講の機関も多い。地方都市でも中核的存在の機関や公開講座の場合は、100人以上在籍している機関もある。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

3-9-3制幼児教育〔4～6歳〕3年、基礎教育9年〔日本の小、中学校に相当〕、中等教育3年〔日本の高校に相当〕。

2005年までは8-3制であったが、2006年から現行制度となった。義務教育段階は幼児～基礎教育（ブラジルでの呼称は「幼児教育（Educação Infantil）」「基礎課程（Ensino Fundamental）」）。スクールカレンダーは、一般に2～6月が第1学期、8～12月が第2学期、7月が冬休み、12～1月が夏休み期間である。

多くの「基礎課程1、2」は午前・午後の2部制、「中等課程（Ensino Médio）」と大学は午前・午後・夜間の3部制を採用している。ブラジル政府は学校教育を2、3部制から全日制へ漸進的に移行する計画を推進中であるが、移行校はまだ一部に限られている。公立校を運営している州、自治体の教育局の中には、前述のCEL-SP、CIL、CELEM-PR、CELPのように、授業のない時間帯に課外活動、文化・スポーツ活動を実施する専門の部署を設けているケースもある。ブラジルでは、働きながら学校・大学・大学院に通うことはごく普通のこととされ、就職に際しても3部制による差別はない。しかし、全日制の学校も少しずつ増加してきており、公立校でも全日制のポルトガル語・日本語バイリンガル校設立プロジェクトが数ヶ所の州教育局で進んでいる。なお、リオデジャネイロ州教育局のプロジェクトとして2022年より日本語・ポルトガル語のインターカルチュラル校が設立された。**教育行政**

公立校の授業料は、大学まですべて無料である。教育局（州および自治体）または教育省（連邦政府）が管轄する。

言語事情

公用語・国語はポルトガル語であり、全土にわたってポルトガル語が通用する。移民が多い国であることから方言などの地域的特徴が残る。今も移民言語（日本語、ドイツ語）が日常的に使われている地域もある。

外国語教育

前述したように、「基礎課程 2」の 6 年生から第 1 外国語として英語が、「中等課程」の 1 年生から第 2 外国語が導入されている。第 2 外国語の選択権は各学校にあるが、最も多く選ばれているのはスペイン語である。

外国語の中での日本語の人気

英語、スペイン語を学ぶ人が多いが、ほかには、フランス語、ドイツ語、イタリア語などに人気がある。東洋言語としては日本語の人気が一番高いが、近年中国語や韓国語を教える学校も増えてきている。課外活動として外国語を教える CEL-SP によると、2025 年度の学習者数を多い順に並べると、スペイン語、英語、フランス語、日本語、手話、イタリア語、ドイツ語、外国語としてのポルトガル語、中国語の順となる。

また、CELEM-PR では、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、ウクライナ語、ポーランド語の順に学習者数が多い。

一方、CIL では、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語が正式な科目として導入され、日本語は 2017 年度より正式に提供されるようになった。しかし、CIL で採用される教師のほとんどがブラジリア大学の卒業生であることから、学部として存在しないドイツ語は CIL では 1 校にしか導入されていない。なお、日本語は 2025 年現在、8 校で提供されている。

大学入試での日本語の扱い

大学入試の外国語の試験で日本語はパラナ連邦大学でしか扱われていない。

4. 学習環境

教材

児童・生徒を対象にした継承語教育を中心に第二次世界大戦以前から教材開発が行われ、1990 年代以降は外国語教育への移行を目指した教材も開発された。現在もそれらを使っているところもあれば、日本で発行された教材を使っているところもある。成人向けのコースでは『まるごと』や『いろどり』を採用している機関も多くなってきている。

初等教育

低学年では、絵カードや文字カードやぬりえ、歌、踊りを中心に遊びを通して日本語に慣れる指導を行っている機関が多い。

1年生から学校で独自に開発した教材を使用している学校もあり、『きそにほんご』（ラボ・日本語）や、『1・2・3日本語で話しましょう』日本語普及センター教科書編集委員会（日本語普及センター）などブラジルで開発された教材のほか、『日本語ドレミ』公益財団法人海外日系人協会、独立行政法人国際協力機構（JICA）や、『こどものほんご』ひょうご日本語教師連絡会議、子どもの日本語研究会（スリーエーネットワーク）など日本で開発された教材も使われている。また、これらをもとにした自作プリントも使われている。

中等教育

CEL-SP と、アマゾナス州の Djalma da Cunha Batista 州立学校（バイリンガル校）では、教育局の要請により JF サンパウロが協力して制作した中等教育段階向け日本語教科書『ことばな』が使用されている。そのほかの公立の学校では、『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）、『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）、『きそにほんご』が使われている。私立学校の場合、前述した教材に加え、自作プリントを作成し使用している。日系人子弟を中心とする学校では、『新しい国語』（東京書籍）も使用されている。

高等教育

日本語専攻の機関では半数以上で『みんなの日本語』が使用されている。そのほか『まるごと』、『いろどり』、『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（研究社）、『生きた素材で学ぶ新・中級から上級への日本語』（ジャパントイムズ）、『Intermediate Kanji Book』（凡人社）、『中級から上級への日本語なりきりリスニング』（ジャパントイムズ）、『留学生のための理論的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）、『上級へのとびら—コンテンツとマルチメディアで学ぶ日本語』（くろしお出版）、自作教材、などが使用されている。

学校教育以外

ブラジルで開発された『きそにほんご』、『1・2・3日本語で話しましょう』のほか、日本で開発された『みんなの日本語』、『大地』（スリーエーネットワーク）、『にほんごドレミ』及び『にほんごジャンプ』海外日系人協会、独立行政法人国際協力機構（JICA）、『JAPANESE FOR YOUNG PEOPLE』、『こどものほんご』、『にほんご1・2・3』寺内久仁子、白井香織ほか（アルク）などが使用されている。また、『まるごと』、『いろどり』への関心も高まっている。

IT・視聴覚機材

都市部を中心に ICT 化が進んでおり、オンライン授業も実施されている。一方、公立の日本語教育機関では、PC、インターネット、WiFi 設備が充実していないところも多い。その中でブラジルなどポルトガル語圏を対象に、民間日本語学校や個人が日本語学習をテーマとした独学者向け YouTube チャンネル、Instagram アカウントを開設している。

5.教師

資格要件

初等教育

ブラジル国籍及びブラジルの教員資格

中等教育

ブラジル国籍及びブラジルの教員資格

なお、課外講座である各州・自治体「言語教育センター」日本語教師の採用状況は、管轄教育局によって異なる。例えば CIL では、CIL 専任（常勤）教師としての採用試験が実施されている。CEL-SP、CELEM-PR では他教科の教師が日本語科目を兼任する場合と、非常勤職員として雇用される場合がある。CELP は、サンパウロ市立学校の教員として 3 年以上採用されている現職教師が対象であり、専任教師として選考される。

高等教育

国籍、教員資格規定なし。応募資格は大学によって様々である。例えば修士課程修了以上の学歴を有するもの、博士課程修了以上の学歴を有するもの、大学院で文学、言語学、応用言語学を専攻しているもの、大学で日本語を専攻しているもの、あるいは文学部または関連分野の学位を有するもの、などである。日本語科目の場合ブラジル国内に博士課程が存在しないため、今なお修士号取得者の教員も少なくないが、関連領域（言語学や文学）での博士号取得者が増えてきている。

学校教育以外

特に資格が問われず、日本語が話せれば教師になれるケースもあるが、条件は機関によりさまざまである。日本語学校の中には、試用期間に教師トレーニングを実施する機関もある。日系団体経営の日本語学校では長年、日本語教師は日系人の職業と見なされてきたが、1990 年代からはブラジルの大学の日本語学科を卒業した人など、非日系人の教師も増えてきた。

日本語教師養成機関（プログラム）

ブラジルの大学の日本語学科のほとんどは、卒業要件として学校教員養成課程の単位取得を含めている。リオデジャネイロ連邦大学、ブラジリア連邦大学、パウリスタ州立大学アシス校、リオデジャネイロ州立大学、パラナ連邦大学、アマゾナス連邦大学で、教育実習も行われている。

そのほか、公認の資格ではないが、ブラジル日本語センター（以下、CBLJ）が日本語教師養成講座を有料で開講している。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

結婚等による永住予定の日本人教師と、JICA や日本の地方自治体を通じての期限付き派遣教師が存在する。ネイティブ教師は、会話指導や日本文化の最新情報の提供を期待されている。そのほか、日本語を習得して帰国した児童・生徒の日本語力の維持などを担当している場合もある。

初等教育

ブラジル国籍とブラジルの教員資格が必要なため、日本人教師の雇用は確認されていない。ただし、JICA ボランティアが派遣されている教育機関では、JICA ボランティアが有資格者と共にアシスタントとして教室に入ることがある。

中等教育

上記【初等教育】に同じ。

高等教育

日本でポルトガル語やブラジル研究を専攻した人、JICA 等の派遣を終了したあと永住した人などが、若干名雇用されている。

学校教育以外

ネイティブ教師のほとんどが学校教育以外で雇用されているが、2025 年時点でノンネイティブ教師が過半数を占めている。

教師研修

中等教育の教師を対象とした研修は、JF サンパウロにおいて、年 1 回実施している。学校教育以外に区分される日系の日本語学校の場合は、地域・州ごとに定期研修会を行っているほか、CBLJ が実施する全伯日本語教師合同研修会や、近隣諸国からも参加がある汎米日本語教師合同研修会にも参加できる。高等教育の教師を対象とした研修会はないが、地域の研修会に個人的に参加する教師もいる。

6. 教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2002 年 4 月に大学の日本語・日本研究の研究者が中心となってブラジル日本研究学会（ABEJ）が発足した。2 年に 1 回、会場持ち回りで 3 日間の大会を開催している。言語・教育、文学、文化の 3 つのテーマを交替で扱う。

日系社会内の日本語学校に関しては、CBLJ が、ネットワーク形成、学習者支援プログラム、教師養成講座及び現職教師研修を行っている。日系社会内の日本語学校のネットワークは地域ブロックごとにブラジル全体で 20 近く存在する。

最新動向

特になし。

[教師会・学会一覧へ](#)

7. 日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

日本語上級専門家

JF サンパウロ日本文化センター 1名

日本語専門家

JF サンパウロ日本文化センター 1名

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

日系社会青年海外協力隊・日系社会海外協力隊

- インダイアツーバ日本語学校 1名
- ロライマ日伯協会 1名
- スザノ日伯学園 1名
- イボチ日伯文化体育協会 1名
- ラーモス日伯文化協会 1名
- ロンドニア州立日伯文化協会 1名
- コロニアピニャール日本語モデル校 1名
- アラサツーバ日本語普及センター(日本語モデル校) 1名
- スザノ金剛寺学園 1名
- サルト日本語学校 1名
- リオデジャネイロ日本語モデル校 1名
- ヴィトリア日本語モデル校本語学校 1名
- イビウナ日本語学校 1名

その他からの派遣

鳥取県・日本語指導員派遣事業

第二アリアンサ鳥取村日本語学校 1名

8. シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

中等教育

ガイドラインを州・市単位で有するが、英語やスペイン語など諸言語に共通の一般的なものである。なお、カリキュラムは学校単位でかなり自由に設定できる。

高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

到達度を測る基準として日本語能力試験が広く認知されており年2回（実施都市によっては1回）実施されている。他に、CBLJが実施している「日本語センターテスト」がある。これは、日本語能力試験 N5 レベル前の試験として実施されており、子どもから成人まで受験可能。また、2009年から公益財団法人日本漢字能力検定協会ブラジル連絡事務所による、日本漢字能力検定試験が行われているほか、2018年から J-TEST が実施されている。

10.日本語教育略史

1908年	笠戸丸移民（第1回日本移民）
1915年	大正小学校創立
1938年	外国語学校閉鎖令（1947年以降徐々に再開）
1956年	日伯文化連盟創立
1963年	サンパウロ大学に日本語日本文学講座（専攻課程）開設
1968年	サンパウロ大学に日本文化研究所設立
1979年	リオデジャネイロ連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
1985年	日本語普及センター（現、ブラジル日本語センター CBLJ）設立
1986年	リオグランデドスル連邦大学に日本語・翻訳講座（専攻課程）開設
1989年	サンパウロ州、パラナ州の州立学校（中等教育段階）で日本語講座開講
1992年	パウリスタ州立大学アシス校に日本語講座（専攻課程）開設
1994年	JF サンパウロ日本語センター（現、JF サンパウロ日本文化センター）設立
1996年	サンパウロ大学に日本語・日本文学・日本文化大学院（修士課程）開設
1997年	ブラジリア連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
2002年	ABEJ（ブラジル日本研究学会）発足
2004年	リオデジャネイロ州立大学に日本語講座（専攻課程）開設
2009年	パラナ州連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設

2011 年	ブラジル連邦特別区の州立学校（中等教育段階）で日本語講座開講
2011 年	アマゾナス連邦大学に日本語講座（専攻課程）開設
2016 年	リオデジャネイロ連邦大学、ブラジル連邦大学、リオグランデドスル連邦大学、パラナ州連邦大学、アマゾナス連邦大学に「国境なき言語」プログラム日本語講座開設 アマゾナス州立 Djalma da Cunha Batista 中学校（全日制バイリンガル校）開校
2017 年	サンパウロ州立パウリスタ大学アシス校に IsF 日本語講座開設
2018 年	J-TEST 実施開始
2019 年	アマゾナス州立 Profa. Jacimar da Silva Gama 高校（全日制バイリンガル校）開校
2021 年	IsF の運営主体がブラジル教育省から ANDIFES へ移管。5 つの連邦大学の学生へ日本語講座の提供を開始
2022 年	リオデジャネイロ州に Colégio Estadual José Maria de Brito Intercultural Brasil-Japão（バイリンガル校）開校 IsF 外国語コース提供対象が 52 連邦大学へ拡大
2023 年	IsF 外国語コース提供対象大学が 55 連邦大学へ拡大 サンパウロ市教育局言語教育センター（CELP）にて日本語講座新規開講

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

E メール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）